



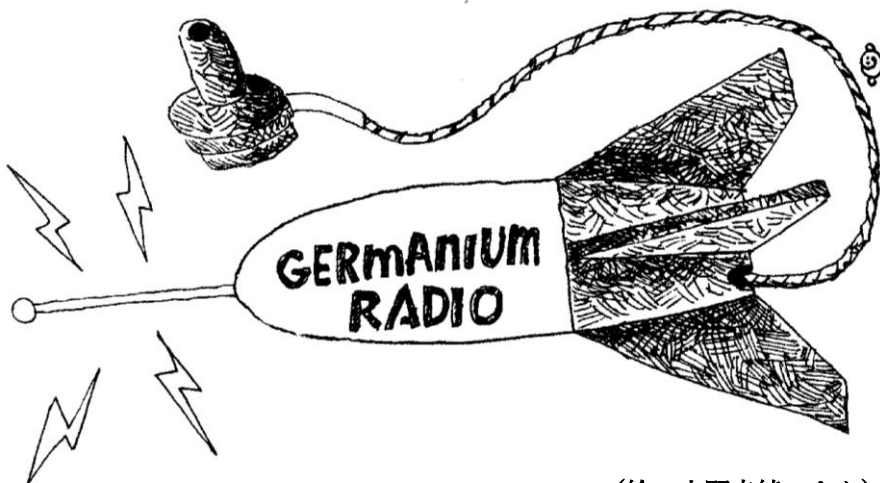
空想少年・ラジオパラダイス

画家 小野寺 純一



テレビでは、新型コロナウイルス禍の報道を伝え、日本海側の大雪に立往生する車の列も映されています。我が家の奥さんは立ち仕事でも、デスクワークもこなしながら、テレビの内容もわかるという特技をもっていて、エライもんだと感心しております。私の場合、ラジオをつけながらの仕事はできますが、テレビでは集中できない、古い型の人間なのであります。というわけで、今回はラジオに育てられた子供のころの話をいたします。

終戦直後に生まれた私たちは団塊の世代で、育つにつれ常に競争させられるという宿命でありましたが、その中での安らぎはラジオだったのです。貴重だったラジオは子供たちの手の届かない茶箆筒の上に置かれ、ダイヤル権は常に大人がもっていて、おもしろくないニュースやバラエティなどを聞かされましたが、落語はおもしろかった。たくみな話芸と筋立てに非常な興味をもったものでした。時代はすすみ、少年誌の広告にゲルマニウムラジオが載るようになり、価格も安いことなどから大人気となり、私も通販で手に入れイヤホンを片耳につけ、自分のダイヤルを手にするのができたんです。白と赤のロケット型で、とてもカッコ良かった。ラジオの最大の利点は音だけで形がみえない。そこをリ



(絵：小野寺純一さん)

スナーは想像しながら、荒海をゆく船とか、大草原を走る馬とか冒険活劇を思い描いて聞くんですね。江戸川乱歩の「少年探偵団」の怪人二十面相と名探偵明智小五郎の手に汗に

ぎる攻防は、主題歌とともに甦るんです。赤胴鈴之助もありましたね。幕末の千葉周作の弟子として修業中の鈴之助は、さまざまな苦難をのりこえ剣士として生きていく姿は、子供の心に、勇気と友を思いやる気持の大切さ、悪は滅びるといふ、弱きを助け悪を憎むがテーマでもありました。やがてヒットパレードが人気となり、忘れもしない中学2年生のとき、イヤホンから流れてきたのが、あのビートルズの「抱きしめたい」です。ヒットチャート第1位で、今まできいたことのないサウンドと自分たちでつくったという歌詞は、すなおに表現され、共感をもって受け入れられたのだと思います。ラジオはFMも常態化され、すばらしい音色で聞くことができ、ゲルマニウムラジオで聞いた音がなつかしいくらいになりました。大相撲実況、岩窟王、三銃士、アイバンホー、コロの物語、笛吹童子、コタンの口笛、三つの歌・宇宙船シリカの冒険、紅孔雀、日曜名作座、二十の扉、やん坊にん坊とん坊、チャッカリ婦人とウッカリ婦人、オールナイト・ニッポン。などなど空想しながらのラジオ行脚、ゲルマニウムラジオはとうに卒業し、立派な受信器できいている毎日、図書館ではうれしい事に、落語などのライブラリーも揃えてあってうれしいかぎりです。